

## 第三者意見



横浜市立大学 学術院国際総合科学群 教授  
グローバル協力コース長

上村 雄彦 氏

昨年に続き、第三者意見を担当させていただくこととなった。昨年は、本業を通じて社会に貢献する「ほんもの」のCSRがどの程度実現できているかという観点から、多くの積極的な評価とともに、改善してほしい点として、①環境に関して基準年が異なっているので統一すること、②サプライチェーンマネジメントまで踏み込んで評価を行うこと、を提言させていただいた。

①については、今年も基準年が2009年、2011年、2013年とバラバラだったので、再度統一をお願いしたい（もっとも「エコカー率の向上」は昨年からはまったばかりなので、仕方がないが）。②についても、特段の言及が見られなかったので、来年の報告書では取り上げられるよう期待したい。

さて、本年はNIPPOの設立80周年に当たる。その報告書を読んで評価できることは、1)80年の歴史がコンパクトにまとめられ、変遷がよく理解できたこと、2)安全管理部門で、災害が低減したこと(29件→24件)、3)環境マネジメントで、産業廃棄物(0.46%→0.39%)と電気使用量(21.2%減)が削減されたこと、4)全社的にCO<sub>2</sub>排出量が削減されたことである(14%削減)。これらの成果をますます伸ばし、着実にCSRを深めていってほしい。

他方、報告書を通じて浮かび上がってきた改善点として、[1]女性従業員の少なさ(1,783名中89名)、[2]合材部門と舗装・土木部門でCO<sub>2</sub>排出が増加していること(それぞれ、1.8%増、8.8%増)、[3]2014年度の目標値が小さいこと、[4]どうやって目標を実現するかが明示されていないことである。

[1]は、仕事の性格上、どうしても従業員は男性が多くなるのは理解できる。ただ、もう少し女性の採用率を高めることで、総合的に安全管理を視る目を増やすことができるのではないだろうか。

[4]については、たとえば全国157カ所にあるアスファルト合材工場から排出される熱を活用して、温水を含めた新たなエネルギーを作り、地域冷暖房システム等を構築する「コジェネレーション」を推進する、「車が走れば走るほど発電ができる道路」を考案するなど、本業を生かしながら、社会の要請に応えられるような大胆な研究開発はできないだろうか？

もちろん、「言うは易く行は難し」ではあるが、「確かなものづくりを通して、豊かな社会の実現に貢献」することを掲げるNIPPOには、ぜひともチャレンジしてほしい。

### ご意見をいただいて



環境安全・品質保証部長  
北村 一博

上村先生には、昨年に引き続き貴重なご意見をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年からの指摘のうち、環境目標の基準年については、改正省エネ法(2009年度基準)と当社中期計画(2011年度基準)それぞれに準じた項目があり、基準年が

混在しています。より新しい実績を基準に目標を見直し、活動を一層推進させたいという方針で、法定とは別に基準年を設定している項目がある点、ご理解いただければ幸いです。

また、他にも課題提起をいただいている中で、特に女性従業員の少なさに関しては、業界の特性による課題でもあります。国の施策等も踏まえつつ、女性が活躍できる職場環境づくりに努めたいと考えています。

80年の経験と技術をさらに未来へつなぐためにも、いただいたご意見は真摯に受け止め、企業理念「確かなものづくりを通じた豊かな社会の実現」に向けて、CSR活動や研究開発に一層力を入れてまいります。